

雁頭沢遺跡

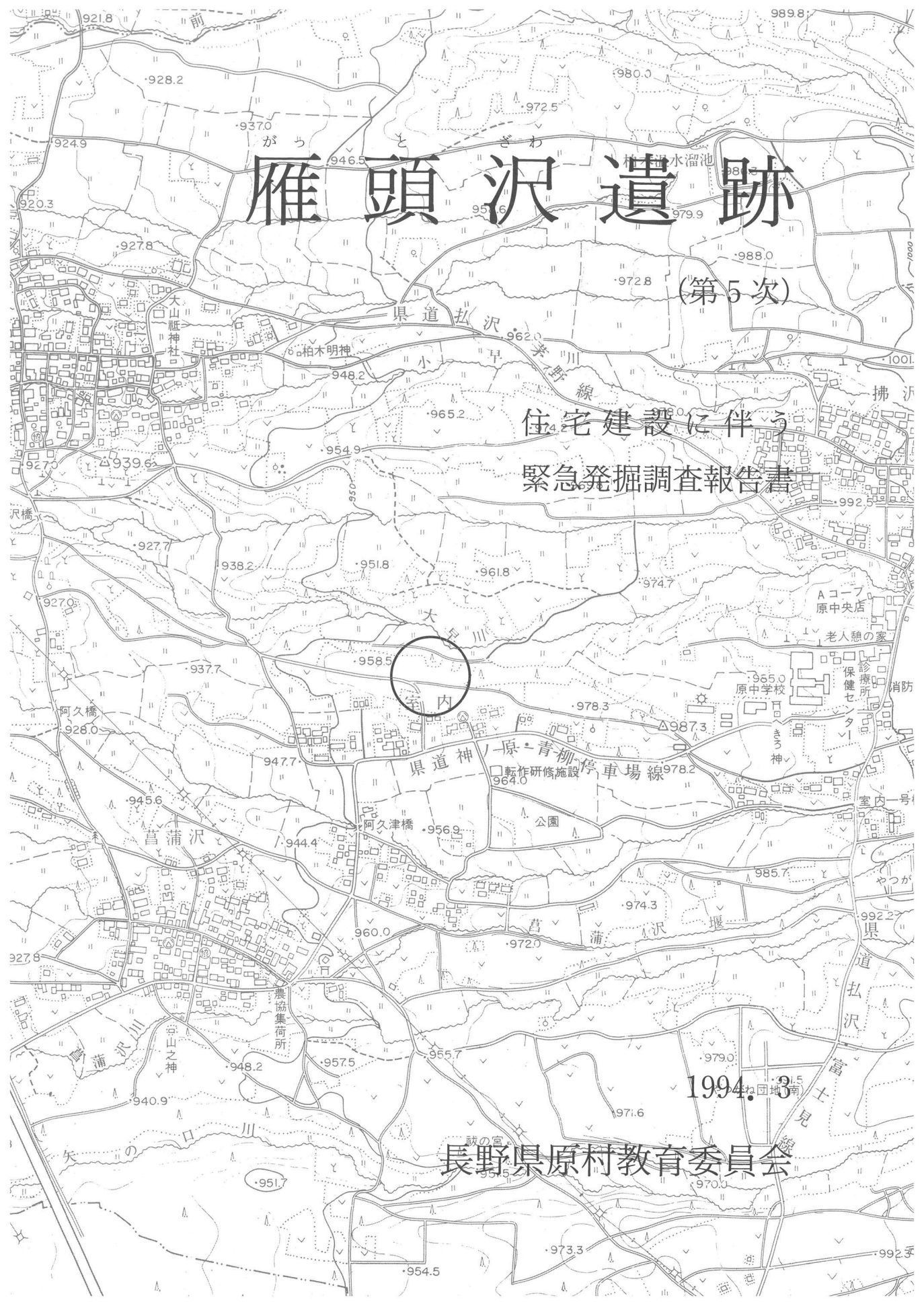
(第5次)

住宅建設に伴う
緊急発掘調査報告書



1994. 3

長野県原村教育委員会



表紙地図10,000分の1 ○印が雁頭沢遺跡

序

本書は、個人住宅の建設に伴って原村教育委員会が今年度実施した発掘調査の報告書です。雁頭沢遺跡のある尾根は近年宅地化がすすみ、山林や畑であった土地に住宅が建設されるケースが増えました。こうした開発の流れの中で、いかなる形で遺跡を保護していくか、最も妥当な方法を検討しているところですが、このたびの地点については昨年度からの協議の中で発掘調査を行って記録保存をはかることとなったものです。

発掘調査の結果、縄文時代人の残した遺物を発見することができ、調査地は集落跡の中心部からはややはずれた東側の外縁部にあたるものと判断されております。

最後に、今回の調査にあたりご理解とご協力をいただいた地主の安藤健司氏、また発掘調査から報告書作成にいたる過程で、ご指導ご協力を賜った関係各位に心から謝意を表し、序といたします。

平成6年3月

原村教育委員会

教育長 平林 太尾

例 言

- 1、本書は、個人住宅の建設に伴って実施した長野県諏訪郡原村室内に所在する雁頭沢遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2、本調査は、国庫及び県費から発掘調査費補助金の交付を受けて、原村教育委員会が平成5年5月31日から6月2日と7月6日に実施した。整理作業は平成6年1月25日から3月22日まで行った。
- 3、現場の発掘調査における遺構等の実測・記録は五味一郎と井上智恵子、写真撮影は五味が行った。遺物整理・遺構実測図の整理、遺物の実測、拓本は五味・井上、原稿の執筆は、五味・井上が話し合いのもとに行った。
- 4、出土品・諸記録は原村教育委員会で保管している。
なお、本調査関係の資料には、53の原村遺跡番号を表記した。
- 5、発掘調査から報告書作成にいたる過程で、長野県教育委員会文化課指導主事小平和夫・小池幸夫・春日雅博の各氏、武藤雄六氏にご指導ご教示を賜わった。記して厚く感謝申し上げる次第である。

目 次

序・例言・目次	
I 調査に至る経過	1
II 発掘調査の経過	3
III 遺跡の位置と環境	3
IV グリッドの設定と調査の方法	5
V 遺跡の層序	5
VI 遺物	5
VII まとめ	6
参考文献・発掘調査団名簿	

I 調査に至る経過

雁頭沢遺跡は昭和54・57・63年度および平成4年度に発掘調査が行われているため、今回が第5次調査となる。

今回の調査は、平成5年1月8日付、地主の安藤健司氏より本人の居住する住宅建設にかかる埋蔵文化財発掘の届け出があったもので、長野県教育委員会の指導のもと原村教育委員会が協議を進め、国庫及び県費から発掘調査費補助金の交付を受けるなかで発掘調査に至ったものである。

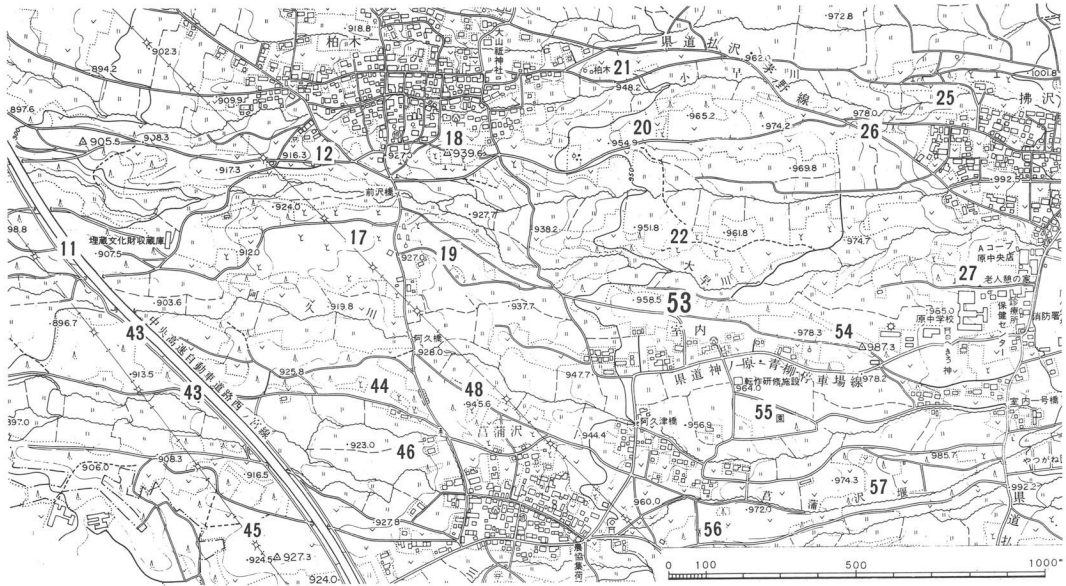
調査対象箇所は用地内の住宅敷地部分と浄化槽設置個所であり、当初、平成5年5月31日から6月2日まで実施して終了したが、その後住宅敷地が拡張されたため7月6日に再度、調査を行った。



第1図 雁頭沢遺跡調査地区と調査風景（北から）

表1 雁頭沢遺跡と付近の遺跡一覧

番号	遺跡名	旧石器	縄文					弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中	後							
11	阿久		○	○	○	○	○			○			昭和50～53年度、平成5年度発掘調査	
12	前沢					○				○		○	昭和55・61年度発掘調査	
17	白ヶ原					○				○			昭和52年度発掘調査	
18	前尾根西					○								
19	南平					○								
20	前尾根					○	○			○			昭和44・52・53・59年度発掘調査	
21	上居沢尾根					○	○					○	平成4年度発掘調査	
22	清水					○								
25	裏尾根					○								
26	家下					○				○			昭和59年度発掘調査	
27	關廬沢					○				○			昭和62年度発掘調査	
28	宮平					○				○	○			
42	居沢尾根					○				○			昭和50・51・52・56年度発掘調査	
43	中阿久					○						○	昭和51年度発掘調査	
44	原山					○				○			昭和50年一部破壊	
45	広原日向	○				○	○			○			昭和58年度発掘調査	
46	宿尻		○			○				○			平成5年度発掘調査	
48	楡の木					○				○			昭和53年一部破壊	
53	雁頭沢					○				○		○	昭和54・57・63、平成4・5年度発掘調査	
54	宮ノ下		○			○				○	○	○	昭和57・58年度発掘調査	
55	中尾根					○	○			○				
56	家前尾根					○				○			昭和51年一部破壊	
57	久保地尾根					○				○			昭和51年一部破壊	



第2図 雁頭沢遺跡の位置と付近の遺跡 (1:20,000)

II 発掘調査の経過

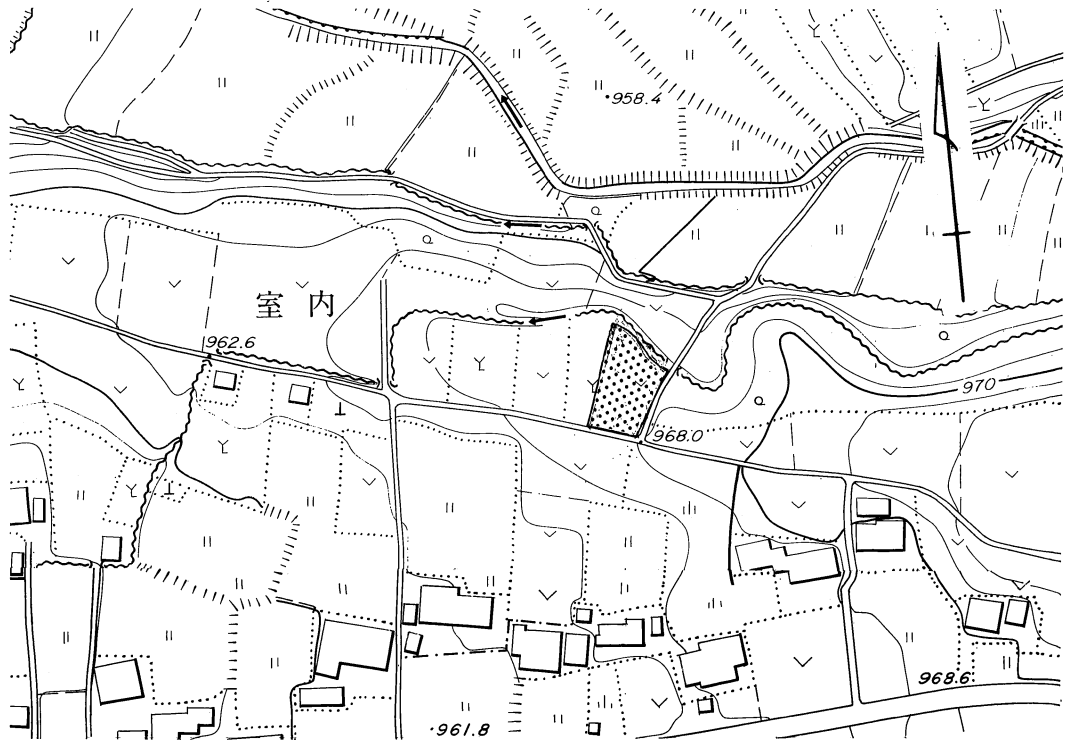
- 平成5年5月31日 機材の搬入。基準杭を打ちグリッド設定を行った後、発掘調査を開始する。いずれのグリッドも第I層の耕作土層からいきなりソフトローム層となる。VB-49グリッドから石鏃、VD-47グリッドからは横刃形石器が出土する。
- 6月1日 グリッド調査。VA-48グリッドにて溝状の攪乱と思われる落ち込みを検出し、確認のためVA-47グリッドを拡張する。すべてのグリッドに炭焼跡状の攪乱やウネ状の攪乱が認められ、遺跡の保存状態は非常に悪い。なおVA-47グリッドから縄文中期初頭の土器片を発見した他、遺物はわずかである。
- 6月2日 グリッド調査。VA-48・47グリッドの攪乱と思われる落ち込みは、一部分を掘り下げて見たところ、石灰やビニールが出土し、最近の攪乱と断定する。グリッドの観察と記録を行った後、グリッド杭を抜き、機材を撤収して作業を終了する。
- 7月6日 住宅予定地の面積が増えたため、再度調査に入る。草刈りを行った後、グリッドを設定し、ほぼ2つ分を調査する。いずれも6月の調査同様攪乱が著しく、遺物包含層は明瞭に確認できなかった。遺物は黒曜石の剝片1点のみ。グリッドの観察と記録を行った後、調査を終了する。

III 遺跡の位置と環境

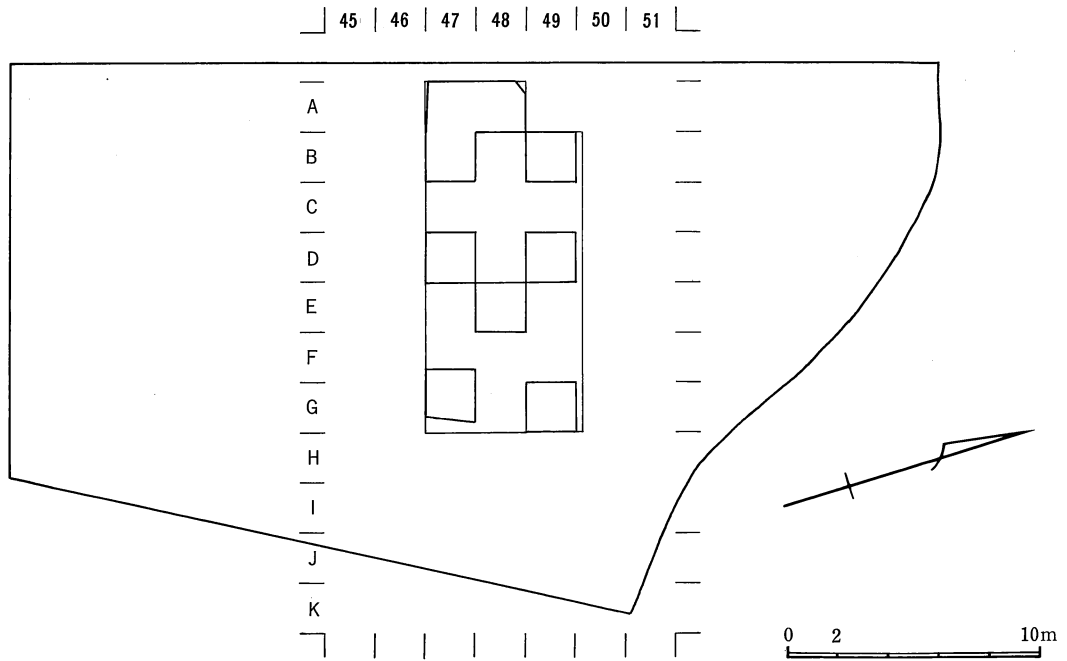
雁頭沢遺跡は（原村遺跡番号53）は、長野県諏訪郡原村室内にあり、近年急速な宅地化が進んでいる。標高は960m前後を測る。地目は普通畑と水田である。

遺跡は北の大早川、南の阿久川によって解析された東西に細長い尾根上に位置する。北側はかなり急な斜面となっているのに対し、南側はなだらかな傾斜を持つ。

今回の調査地点は、前回までの調査によって推定されている縄文時代の集落の中心部からは標高にして7m高く、距離にして80m東方にあたる。地番は原村字家裏尾根11,804-3である。



第3図 雁頭沢遺跡発掘調査区域図・地形図 (1:2,500)



第4図 宅地区画とグリッド配置図 (1:300)

IV グリッドの設定と調査の方法

調査にあたり、住宅の区画に沿ってグリッドを設定している。以前の第1次調査は道路方向に軸をあわせ、第3次調査は磁北に軸をあわせているため、統一がとれずあまり望ましいことではないが、調査の便を考えてこのようにした。

まず、長方形の住宅の南西隅に基準クイを置き、住宅の区画に沿って直角を出した。これをもとに2m間隔のグリッドを調査区内に設定した。主軸は磁北より17度、東へ振れている。ほぼ西北西-東南東方向は、西北西からアルファベットのA~Gに区画し、南南西-北北東方向は南南西方向に若くなるように算用数字の50~47までをふった。各グリッドはたとえばVB-47のように表記して特定した（先頭のVは第5次調査を意味している）。

発掘は2m×2mのグリッドを手掘で行い、敷地面積83m²のうち36m²を調査した。なお原則として第I層までの調査である。

V 遺跡の層序

第I層 茶褐色土層 いわゆる耕作土層。これ以下の層とは不整合である。厚さは14~20cmで、所により7cmまでのロームブロックを含む。

第II層 黄褐色土層 いわゆるソフトローム層。当地方に一般的なソフトローム層であり、柔らかくてしまりもあまりない。F・G列のグリッドでは一部ハードローム層をII層としている。

本調査ではグリッドごとに平面発掘を実施したが、耕作によってソフトローム層（一部はハードローム層）まで削られているため、第3次調査で認められた「ローム漸移層」は存在せず、遺物包含層も確認できなかった。

VI 遺物

調査の結果、縄文時代の土器片10点、大形粗製石匙1点、石鏃2点、両極打法による剝片1点、黒曜石の剝片・碎片11点、変成岩の剝片2点の合計27点を発見した。いずれのグリッドにおいても遺物包含層を明瞭に確認することはできず、また遺構を検出するまでには到らなかった。

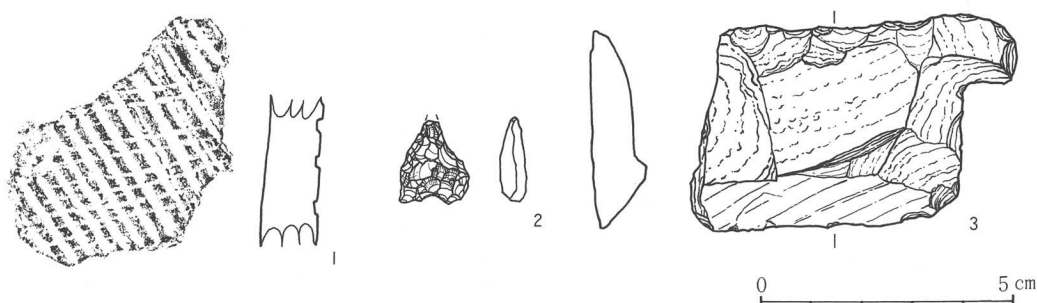
(1) 土 器

いずれも縄文時代の土器片であるが小片が多く、帰属時期のはっきりしたものは1点のみである。第5図1は縄文時代中期初頭の土器片であり、半截竹管文を特徴とする。焼成は良好で赤褐色を呈し、石英・長石と風化した黒雲母を多く含む。VA-47グリッドから出土した。

(2) 石 器

図2は石鏃である。黒曜石製で、腹面に主要剥離面を残す粗雑な整形である。図示しなかったが、もう1点失敗品と思われるものが出土している。いずれもVB-49グリッド出土。

3は石匙である。硬砂岩製で、素材の一端の出っ張りにわずかな調整を加え、茎状の作り出し(つまみ)としている。刃部は調整がなく、節理面と裏面の主要剥離面で刃線を形成している。腹面側には細かい刃こぼれが認められる。VD-47グリッド出土。



第5図 土器拓影と石器実測図(2:3)

VII ま と め

発掘区内は、後世の攪乱が顕著で保存状態が悪く、調査によって遺構を検出することはできなかった。そんな中で、縄文時代の遺物をわずかではあるが発見することができた。これらは、今までの調査で発見されているものと同時期であるため、調査地点は本遺跡の縄文時代集落跡の東外縁部にあたるものと思われ、その様相の一端をうかがうことができたといえよう。

最後に、関係者各位ならびに発掘調査にたずさわった方々に厚くお礼申し上げる次第である。

参 考 文 献

- 1985.07 原村役場『原村誌 上巻』
- 1989.03 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財16 雁頭沢遺跡（第3次） 住宅団地造成に伴う緊急発掘調査概報』
- 1993.03 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財21 雁頭沢（第4次）・下原山茂佐久保（第3次）遺跡 平成4年度住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書』

発掘調査団名簿

団 長 平林太尾（原村教育委員会教育長）

調査担当者 五味一郎（原村教育委員会）

調 査 員 井上智恵子

調査参加者 平林 途雄 行田すみこ（順不同）

事 務 局 平林今朝二（教育次長） 大口美代子（庶務係長） 宮坂 道彦
伊藤 佳江 平出 一治 平林とし美 五味 一郎

原村の埋蔵文化財23

雁頭沢遺跡（第5次）

住宅建設に伴う
緊急発掘調査報告書

発行日 平成6年3月22日

発 行 原 村 教 育 委 員 会
長野県諏訪郡原村

印刷所 日本ハイコム株式会社
塩尻市北小野 4724
TEL 0263-56-2111

